

“世のために尽くさん”の誓いを胸に 今羽ばたいていく卒業生199名

第64回卒業証書授与式

門出の言葉

卒業生代表 佐原 祐希
(米沢一中出身)



部活や、クラスの中で出来た仲間との一つ一つの思い出は一生の宝物となるでしょう。私たちはどんな場面でも決して一人ではありませんでした。周りにはいつも仲間がいて、喜怒哀楽を分かち合い、共に励まし合いながら前進することができました。時には厳しく時には温かく支えてくださった先生方や家族、地域の皆様がいながらこの三年間でした。これまでに培ってきた仲間との「絆」は今も私たちを支えるかけがえのないものです。これからも大きな財産になることと思います。

東日本大震災は自他の生命を尊重し、世のため人のために出来ることは何かと「興譲の精神」と社会におけるこれからの私たちの使命を強く意識させる出来事となりました。

在校生の皆さんには、ぜひ「興譲の精神」を大切に、常に社会に目を向け、自分ができることは何かを考え実践して欲しいと思います。自分の信じる道を進みながら、頑張ってください。私たちはいつでも応援しています。校長先生をはじめ多くの先生方、私たちを最後の最後まで丁寧に指導いただき、ありがとうございました。そして毎日身体的にも精神的にも支え、いつも味方でいてくれたお父さん、お母さん、家族のみなさんがとうございました。この感謝の気持ちはとうとういありがとうの一言だけでは伝えきれないでしょう。しかし、これからの生活の中で示すことで、皆さんに恩返しができるよう一生懸命頑張っていきます。



明によみがえってきます。先輩方は、学習はもちろんのこと部活動にも本気で取り組み、興譲館生が理想としている「文武両道」を見事に成し遂げていました。これから皆さんはそれぞれの道に進み、自分の夢に向けて大きく羽ばたいていくことと思います。この三年間で培った「興譲の精神」はこれからの人生において大切なものとなることでしょう。辛いことがあった時には切磋琢磨した仲間たちを思い出して、どんな困難な壁も乗り越えていってください。先輩方の熱い志と情熱の先には必ず「栄光への道」が続いています。私たち一人一人が「興譲の精神」を育み、後世に伝えていくことが使命だと思います。誇り高きこの米沢興譲館高校の栄えある伝統と歴史を受け継いでいくことをここに誓います。

最後になりますが、これから先、先輩方がそれぞれの個性を生かし、様々な困難を糧として大きく成長されること、そして何より皆さんのご健康とさらなる活躍をお祈りして、はなむけの言葉といたします。

米沢興譲館だより

Yonezawa Kojokan High School

第23号 平成24年3月23日発行
山形県立
米沢興譲館高等学校

〒992-1443
山形県米沢市大字笹野1101
TEL 0238-38-4741
FAX 0238-38-2531

<http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

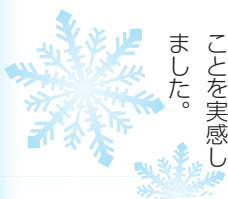
先輩の言葉

在校生代表 大池 清士
(米沢一中出身)

今先輩方の脳裏には、米沢興譲館高校で学んできたこと、経験したこと、様々な行事の思い出などが駆け巡っていることと思います。私たちが在校生も先輩方とともに過ごしてきた日々が鮮

今年も部活動ごとに12基の雪灯籠と3基の雪像を作製しました

第三十五回 上杉雪灯籠祭り



私達は地域の方々の優しさに支えられて、このことを実感しました。



今回吹研では雪灯籠二基と「ハーモニー」という牛の雪像を作製しました。初めて作る人がほとんどで、思うように削れなくてすべてが手探り状態でしたが、無事完成しました。牛の方もたくさんの方に見ていただくことができました。また、雪像コンテストの審査の際には一年生全員で「ふるさと」を歌って、拍手をいだけどもうれしかったんです。雪灯籠制作は地域貢献活動の一環として参加したわけですが、それ以上に、地域の方々から甘酒をいただいたり、雪灯籠の作り方を丁寧に教えていただいたり、

雪灯籠を制作して

中川 玲実
(米沢一中出身)



豪雪と極寒の中のスキー授業

スキーをするのは二年ぶりでした。久しぶりでうまく滑れるか少し不安でしたが、滑ってみると意外と感覚は覚えていたもので、うまくは滑れずとも気持ちよく滑ることができました。初めての天元台では、インストラクターの方の指導で、少しずつなれたような気がします。でも正直体重移動やターンの切り替えがどうと言われてもよく分かりませんでした。しかし、バランスを崩して顔から鮮やかに雪に突っ込んだのはいい思い出です。授業当日は、天気に恵まれ、真っ白な米沢を一望することができました。登山のときは印象が全く違って感動しました。来年のスキー授業も楽しみです。

久しぶりと初めて

伊藤 佳穂
(米沢五中出身)



欧州カデサーキットエペ スロバキア大会 出場 スエーデン大会 出場

国際大会に出場して 戸田 顕崇 (米沢二中出身)

私はこれまで二度の国際大会に出場しました。その中で日本ではなかなかできないことを経験し、学ぶことができました。国内の大会では通用することが、海外の選手との試合では通用しないなど、さまざまな困難もありましたが、試合の中で考えながら、自分の得意な技で得点することができました。たくさんの方の反省をバネにして、国際大会で勝てる選手に成長したいと思っています。

現在は三月末に行われる世界選手権に向けて練習に励んでいます。日本代表として日の丸を背負って出場するので、支えてくださっている方々へ感謝し、これまで以上の結果を残し、恩返ししたいと考えています。気持ちをを入れて頑張ります。

インターハイ アルペン競技 出場 インターハイを目指して

八島 奈緒 (飯豊中出身)

今回、インターハイの会場が地元山形県蔵王スキー場ということで、インターハイ出場を目標として日々の練習に励んできました。私が所属するスキー部は少人数ということもあり、チームとしての活動が少ない中、練習量よりも効率の良さを心掛けるようにしました。そのため、集中して一つ一つの質を上げる取り組みができたと思います。当日は、周りの雰囲気にもまれそうになりながらも、今までの努力を信じて滑りきることができました。思うような結果は出せませんでしたが、私にとっては大変良い経験となりました。支えてくださったコーチや先生方に心より感謝しています。今回の経験をいかし来年も出場できるように頑張ります。

予



会



餞



予餞会を通して

大池 清士
(米沢二中出身)

センター試験を終えた三年生へ、二次試験に向けて一・二年生、先生方がエールを送る予餞会。今年度は、昨年の反省を生かし「みんなで作る予餞会」を実現することができました。ステージ発表と装飾に分かれ、誰かに頼るのではなく、一人一人が「役割」を持つことで、より質の高い会になったと思います。準備時間は短かったのですが、各クラス時間を見つけて準備し、内容の濃い充実した発表となりました。受験に向けて、日々勉強に力を入れる三年生の姿を、一・二年生はずっと見てきたと思います。そんな三年生への応援も、全員が全力で取り組んでいました。私たちの熱いエールを送ることができたと思います。



米沢興譲館高校の“Scienza Festa”

理数科

課題研究
発表会



課題研究を経験して

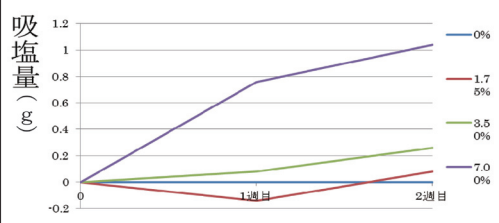
西山 萌乃

(赤湯中出身)

私たちの班は東日本大震災の被災地で役に立つ研究がしたいという思いから、研究のテーマに「塩害土壌の再生」を選びました。現在、国が行っている除塩方法はコストも時間もかかります。そこで私たちは機械を使わずにアイスプラントという植物を活用した除塩方法を研究しました。実験を行う中でアイスプラントの栽培に失敗したり、塩分濃度の測定に失敗したりと苦戦しました。また、苗を買っても枯らしてしまったりと、生き物を相手にする難しさを感じました。研究は簡単なことばかりではありませんでしたが、発表を聞いてくださった方々に「塩害」という問題についての私たちの研究成果が少しでも伝わり、「最優秀賞」という結果につながったのだと思います。大変うれしく感じています。

私たちに研究の機会を与えてくださった方々、発表を聞いてくださった方々、本当にありがとうございました。

吸塩量の変化



最優秀賞

「塩害土壌の再生～Bring land back to life～」
(2年 生物班)



理数科1年生によるTST学習内容グループ別ポスターセッション

輝ける青春の日々に…

二年保護者 西山 克子さん

娘曰く「理数科は興譲館の醍醐味」なのだとか。課題研究がしたいと理数科に入り、良き友に恵まれました。課題研究発表会当日は各チームとも、輝いていました。ただ娘よ、真の本番はこれから。燃え尽きている場合では、ない…。

昨年、お盆休み中にもクラス皆で練習していた「残酷な天使のテーゼ」は秀逸でした。この夏もガリガリ君、差し入れますね！

思いがけず司道と出会い、良き師に学び、同じ志の良き仲間と切磋琢磨する毎日感謝しています。願わくは、部活動が休みの日も、もう少しやる気を出していたださい。

素晴らしい先生方の御指導の下、青春を謳歌している子供たちの姿を見るのが、親としては無上の喜びです。

